

2022年6月6日

第4期  
一般社団法人渋谷未来デザイン  
事業報告書

自 令和3年(2021年)4月1日  
至 令和4年(2022年)3月31日

# 目次

1 現況に関する事項	2
2 事業活動に関する事項	3
(1) 事業の概況	3
(2) 主な事業の状況と成果	4
① ダイバーシティ&インクルージョン事業	4
② 創造文化都市事業	5
③ アーバンスポーツ事業	5
④ YOU MAKE SHIBUYA 事業	6
⑤ スマートシティ事業	6
⑥ 公共空間 NEXT 事業	7
⑦ エリアマネジメント研究事業	7
⑧ その他	8
3 パートナー企業に関する事項	9
4 パブリックパートナーに関する事項	9
5 役員に関する事項	10
6 Future Designer に関する事項	10
7 会議に関する事項	11

## 現況に関する事項

2018年4月に設立された一般社団法人渋谷未来デザイン（以下「FDS」という。）は、多様性あふれる未来に向けた世界最前線の実験都市「渋谷区」をつくるイノベーションプラットフォームとして、企業・市民と共に多様なアプローチで、課題解決のみではない様々な“可能性開拓型”のプロジェクトを推進し、2021年度には100社を超えるパートナー企業・団体が組織・プロジェクトに参加し、共に活動を進めています。

第4期目となる2021年度も、昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響によって、私たちの社会システムは大きな変革を余儀なくされ、渋谷という街も大きなダメージを受け、リアルなイベント含め活動の多くは制限や打撃を受け続けました。そのような状況下においても、FDSとしては活動を止めることなく、様々な主体と共に検討・模索、新たな取り組みを可能な限り実行してまいりました。

このような背景を踏まえて、2020年よりオフラインとオンラインのハイブリッド型を導入した「SOCIAL INNOVATION WEEK SHIBUYA 2021 (SIW)」は、アイデアの祭典として進化し、延べ13万人の参加があり、ここで議論されたアイデアのいくつかは実装し始めるなど、まさに渋谷のフラッグシップイベントとしても位置付けられてきています。コロナ禍でも渋谷のカルチャーを止めず、テクノロジーを駆使した新たな体験価値を提供すべく2020年にスタートした都市連動型メタバース「渋谷区公認バーチャル渋谷」は、継続的な取り組みを行い続け、時代の最先端の取り組みとして評価を受けJACEイベントアワード最優秀賞経済産業大臣賞を始めとする国内外の様々な賞を受賞しました。

新たな取り組みもいくつか生まれました。子どもたちが安心して過ごせる環境で、将来の自立に向けて生き抜く力を育むことを目的として、児童青少年センターフレンズ本町に「みらいの図書室」を開設し、週3日こども達に向けた第三の居場所作りをしています。さらには、渋谷区で防災・減災の普及啓発活動『もしもプロジェクト渋谷』や、女性が日々直面する女性特有の健康課題への認知を拡大し、解決のための行動を促進するプロジェクト「Women's Wellness Action from Shibuya (WWAs)」もスタートさせ継続的な展開を進めています。「公園の高度利用」を目的とし、リアルとバーチャルが連携した新たな体験やコミュニケーションを創出すべく、渋谷区立宮下公園のバーチャル空間も完成し、イベントなど実験的な展開もしています。

そして、11月には渋谷未来デザイン初となる書籍「変わり続ける！シブヤ系まちづくり」を株式会社日建設計と共に出版し、街づくりの新しい形を発信しています。

第4期は、助成金の増加（昨年比7,796万円増）やパートナー企業からの協賛金の増加（昨年比1億179万円増）、また法人会員数につきましても16社増加（104社）したことなどにより、4億9,832万円の経常収益（売上高）となりました。年間を通して収入に対する支出のバランスの改善を図った結果、最終決算については、4,063万円の経常増額となりました。

次年度も、さらなるプロジェクトの活性化とパートナーとの連携強化、新たな補助金の

活用等、年間を通しての収入、支出ごとの予算及び実績の財務管理の徹底、管理、コーポレート、事業の各部門による役割分担と体制強化を継続的に行うことで、バランスのとれた収支決算を目指しながら、渋谷未来デザインが持続可能な組織となるための取組を進めるとともに、ニューノーマルにおける新たな可能性に対しても積極的にチャレンジしてまいります。

## 1 事業活動に関する事項

### (1) 事業の概況

FDS が実施した第 4 期事業は、表 1 に示されたイノベーション事業、インキュベーション事業に大別されます。

表 1 FDS の事業体系

事業分野	プロジェクト名
<b>イノベーション事業</b>	
①ダイバーシティ & インクルージョン事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Social Innovation Week Shibuya (SIW)</li> <li>● 渋谷区子育てネウボラ連携</li> <li>● こども第三の居場所</li> <li>● 渋谷区環境基本計画啓発事業</li> </ul>
②創造文化都市事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 渋谷 5G エンターテインメントプロジェクト</li> </ul>
③アーバンスポーツ事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ストリートスポーツ“NEXT GENERATIONS”</li> <li>● 渋谷フューチャースポーツ</li> </ul>
④YOU MAKE SHIBUYA 事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 渋谷区公認スーベニア</li> </ul>
<b>インキュベーション事業</b>	
⑤スマートシティ事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 渋谷データコンソーシアム</li> </ul>
⑥公共空間 NEXT 事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公共空間利活用研究</li> <li>● パブリックプレイス・渋谷区立宮下公園 XR</li> </ul>
⑦エリアマネジメント研究事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ササハタハツまちラボ</li> </ul>
⑧その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 法人会員制度</li> <li>● もしもプロジェクト</li> <li>● Women`s Wellness Action from Shibuya (WWAs)</li> </ul>

## (2) 主な事業の状況と成果

### ① ダイバーシティ & インクルージョン事業

#### (i) Social Innovation Week Shibuya (SIW)

国内最大級のソーシャルデザインをテーマにした東京・渋谷の都市フェスとして、感染防止対策（開催ガイドラインの策定、来場者と出演者、スタッフの検温を徹底、オンライン配信とオフライン観覧での並行開催、配信プラットフォーム Twitch における生配信、公式 YouTube チャンネルでアーカイブ映像を無料公開するなど）に取り組みながら開催しました。

2021 年は「HELLO! IDEA」をスローガンとして、渋谷の街で産官学民がプログラムを共につくり、議論に参加することで、多様なアイデアが出会い、つながり、触れ合う 10 日間（2021 年 11 月 5 日～14 日）となりました。

SIW2021 では、AWARD、CONFERENCE、NETWORKING、EXPERIENCE の 4 つの軸で 13 会場、107 のプログラムを展開し、延べ 13 万人の参加がありました。

#### (ii) 渋谷区子育てネウボラ連携

子育て拠点施設として新たにオープンした「渋谷区子育てネウボラ」の主たる広報活動であるウェブサイトの制作及び運用業務を行いました。また施設のオープンにあわせ「渋谷区子育てネウボラ施設案内」を制作するなど、広報・周知活動の支援を行いました。

#### (iii) こども第三の居場所

新たな取り組みとして、子どもたちが安心して過ごせる環境で、自己肯定感、人や社会と関わる力、生活習慣、学習習慣など、将来の自立に向けて生き抜く力を育むことを目的として、日本財団が中心となって全国に開設している「子ども第三の居場所」の一つの拠点として、2022 年 1 月 18 日に児童青少年センターフレンズ本町に「みらいの図書室」を開設しました。

「みらいの図書室」では、小学生を対象に宿題のサポートに加えて様々なデジタルツールを活用したクリエイティブプログラムや、SDGs 視点での社会教育、実験、体験学習のプログラムを提供し、未来への関心や共感性、生き抜く力を高めていくことを目指します。また、「ササハタハツ」や「NEXT GENERATIONS」との連携プログラムを実施しました。

(2021 年度登録児童数 9 人 実施回数 32 日 1 日平均参加児童数 5 人)

#### (iv) 渋谷区環境基本計画啓発事業

2021 年度は、渋谷区立加計塚小学校児童が、区内事業者等に対してオンラインで地球環境問題に関するインタビューを行う「地域環境インタビュー」を実施しました。小学校 5 年生 63 名が、7 事業者の事業活動や環境活動について調べ質問を用意、事業者それぞれが児童たちと環境コミュニケーションを行いました。また実施に当たっては、実践女子大学 2 年生 20 名が環境ファシリテーターとして講座を受講後、児童たちの学び支援を小

学校で行いました。渋谷で学ぶ児童や大学生、そして渋谷にかかわる事業者がそれぞれ連携し、未来の環境都市渋谷に向けた学びと気づきを渋谷区と共に啓発しました。

## ② 創造文化都市事業

### (i) 渋谷5Gエンターテインメントプロジェクト

2021年度は「バーチャルミュージックライブ」「バーチャル渋谷MODI前エリア拡張」「バーチャル原宿拡張」、昨年引き続きバーチャル渋谷で「ハロウィーンフェス」「クリスマス」などのイベントを開催、街では映画と連動したARの施策を実施しました。これらのVRやARの知見に基づき都市連動型メタバースのガイドライン整備を目的とした「バーチャルシティコンソーシアム」を立ち上げ、ver1.0を2022年4月に公開予定です。その他にもLINE CUBE SHIBUYAを実証会場とした総務省の実証事業「ローカル5Gを活用したワイヤレス映像伝送の実証実験」、アパレルDXを目指す「Fashion meets technology in Shibuya」も始動するなど、コロナ禍でもカルチャーを止めず、テクノロジーを駆使した新たな体験価値を渋谷から発信してきました。それらの取り組みにおいてJACE イベントアワード最優秀賞経済産業大臣賞をはじめとする国内外の様々な賞を受賞しました。

## ③ アーバンスポーツ事業

### (i) ストリートスポーツ“NEXT GENERATIONS”

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が続く年度でしたが、シーンの声より「ウィズコロナ」のアプローチで、U-15 アスリートに向けたコンペティション Next Generations Games 2021（継続開催・4回目）は、フェス型のコンペティションイベントとして代々木公園 ケヤキ並木にて実施し、アスリート総勢100名が出場しました。また、年度末にはU-15 アスリートのなかでも、特に今後、国内外での活躍が期待されるアスリートに向けたNext Generations Elite Camp & Awardsと題した「心・技・体・智」をテーマに各界のトップ講師を招いたワークショップを初開催しました。周辺層に向けては、特に高校生・大学生を対象のShibuya Sports Academyでは、SIWなど様々なコンテンツとの連携が実現しました。

今年度もキープコンセプトしつつ、エントリー層や周辺層に向けた企画や、映像やデジタル部分などへの注力をポイントに、各所と様々な連携を視野に取り組んでいきます。

### (ii) 渋谷フューチャースポーツ

#### 宮下公園 ダンススペース実証実験

宮下公園において、ナイキジャパンとの協働プロジェクトとして、無料でストリートダンスを練習できるスペースを設置しました。実証実験は9月～11月のおよそ3ヶ月間で2,000人を超える利用者に参加頂くことができました。渋谷の街と共に発展してきたストリートダンスやストリートカルチャーですが、時代や開発が進むにつれて街でその様な活

動が出来なくなってきたところ、エリアやスペースを設けることで若者の来街動機に繋がりを、コミュニティが形成されていくことが実証実験を通して検証されました。

#### 宮下公園 スケートボード実証実験

街が抱えるストリートスポーツのマナー問題について、渋谷未来デザインとナイキジャパンが共同で啓蒙イベントとして体験イベント及び、無料解放スペースを設置しました。宮下公園と渋谷駅を繋ぐ遊歩道上に特設のスケートボードスペースを設置し、宮下公園屋上ではプレイすることができない初心者かつ子供達の希望者を対象に体験会を実施しました。それ以外の時間では、一般無料開放を行うとともに、マナー啓蒙のビデオ視聴の促進や、クローズ後の宮下公園周辺の清掃活動を行いました。

### ④ YOU MAKE SHIBUYA 事業

#### (i) 渋谷区公認スーベニア

「SHIBUKURO」プロジェクト及びLINE スタンプに加えて、「YOU MAKE SHIBUYA スーベニア」の取組を2021年より開始しました。渋谷の地域資産を活用するモノ・コトに「YOU MAKE SHIBUYA スーベニア渋谷未来デザイン公式認定ロゴマーク」を付与し、うまれる収益の一部をこれまで同様地域に還元します。コラボレーション対象範囲を拡大し、幅広い商品からの採用を獲得しました。

2021年度は、集めた収益の地域還元にも注力し、5月には障がいのあるアーティストの魅力発信のための展示や商品販売をシブヤフォント及びヘラルボニーと連携して実施しました。10月には、区内落書き消去および防止対策のイベントに物品を寄付しました。加えて、1月より、文化・エンタテインメント分野において渋谷を盛り上げる活動をする個人・事業者・団体を応募対象として、金銭的支援を行う公募企画も開始し、計10組以上の応募を受け付けました。

### ⑤ スマートシティ事業

#### (i) 渋谷データコンソーシアム

2021年度は、ICTベンダーやネットワーク事業者、サービス事業者などの会員企業とともに、定期的な勉強会の実施を行いました。また、渋谷の様々なデータを可視化する「デジタルツイン渋谷プロジェクト」のスタートや、スマートインフラの構築について渋谷区を交えて議論を行う「スマートインフラ研究会」の発足など、コアとなる事業の立ち上げを行いました。さらに、デジタルアプリサービスを通じた実証実験(shibuya good pass)や、東急百貨店前や渋谷ソラスタ前のリアルな空間を活用した社会実験(SMILE)を行い、今後の知見となるデータの収集を行いました。また、会津若松市や沼津市などスマートシティ先行都市と連携を行い、ノウハウや知見の共有、SIWでのトークショーを行いました。

## ⑥ 公共空間 NEXT 事業

### (i) 公共空間利活用研究

コロナ禍における行動制限を受け、世界の先進都市で屋外空間の価値が見直され、道路、公園の利活用拡大が進む中、渋谷においては、宮益坂をフィールドに、地元商店街、渋谷区と共に特例道路占用許可制度の活用による仮設テーブル Bollasite2.0 の計画検討を進めました。また、SIW2021 では、社会実験ユニット souple とのセッションを実施し、これを機に、原宿神宮前地域の課題をクリエイティブの力で解決する道路社会実験実施の検討を、地元団体、渋谷区と共にスタートしました。

さらに、公共空間ビジョンを踏まえ、改善したいエリアの事前明示に対し、地域組織や民間の取組提案を行政が許可する制度「仮称渋谷ストリートプログラム」の検討や、明治大学による、都市の風景等をプロダクト化し、利益を都市に還元する仕組みの検討、試作品製作など、多様な公共空間の利活用に向けた取り組みを進めました。

### (ii) パブリックプレイス・アート

2021 年度は「公園の高度利用」を目的とし、渋谷区立宮下公園のバーチャル空間を制作しました。リアルとバーチャルが連携した新たな体験やコミュニケーションを創出し、公園の賑わい創出を行いました。具体的なイベントでは、渋谷芸術祭のコンテンツとしてバーチャルアート展や宮下公園を舞台にしたバーチャル謎解き等を実施しました。また地域の小学生を対象としたバーチャル空間の体験会も実施し、バーチャル空間の活用方法や地域の方の利用促進について検討を進めました。

## ⑦ エリアマネジメント研究事業

### (i) ササハタハツまちラボ

エリアに関係する行政機関、民間企業、各種団体及び区民の幅広い参加の下でササハタハツエリアでの暮らしの質の向上を目的とし活動しました。コミュニティ活動の支援や、エリアビジョンの策定に加えて、官民連携事業として、玉川上水旧水路緑道を活用した緑道活用社会実験「388FARM B」を行い、緑道を核とした地域コミュニティ形成の機運を醸成するとともに、官民連携スキームの検討を行いながら、産官学民連携で緑道の活用を推進するプラットフォームの構築を検討し進めました。また、オウンドメディアや既存のメディアを活用し、エリア内外に広く活動を発信しました。



⑧ その他

(i) 法人会員制度

本年度新たに会員となった企業は表2のとおりでした。

表 2 新規会員企業一覧

特別正会員(計 3 社)	正会員(計 27 社)
イーデザイン損害保険株式会社、三井不動産株式会社、株式会社ネクイノ	株式会社白寿生科学研究所、GoPro 合同会社、三井物産株式会社、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社、レッドブル・ジャパン株式会社、Plus W 株式会社、ワールド・ハイビジョン・チャンネル株式会社、株式会社ニューバランスジャパン、Twitch Japan 合同会社、株式会社 AOI Pro.、株式会社 DE、株式会社乃村工藝社、株式会社博展、株式会社タカラトミー、日本マイクロソフト株式会社、株式会社トリデンテ、ヤンセンファーマ株式会社、ビー・エム・ダブリュー株式会社、株式会社セールスフォース・ドットコム、株式会社ワイズコネクション、株式会社ナイキジャパン、株式会社モルテン、株式会社 INFORICH、株式会社ワンオー、アドビ株式会社、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、株式会社レーサム

(ii) もしもプロジェクト

もしもプロジェクトは、こくみん共済 coop〈全労済〉、渋谷区観光協会、渋谷未来デザインの3団体が主催し、渋谷区の後援を受けて実施する、共創による防災・減災の普及啓発プロジェクトとして、2021年3月にスタートしました。渋谷の街を舞台に、一人ひとりが「もしも」の日のために何ができるかを考え、備えることで、レジリエントな街づくりをめざす取り組みです。

2021年度は、5月に、防災・減災をテーマに、訪れた方が思わずSNSで投稿したくなるような気づきのある展示を展開した「もしも展」、東急ハンズ渋谷店様のご協力のもと、防災グッズの特設売り場を展開した「もしもストア」、多様なクリエイターと防災・減災を考える「もしもカンファレンス」を実施しました。また11月にはSIWにおいて、都市防災についてのカンファレンスである「もしも会議」を行いました。

(iii) Women`s Wellness Action from Shibuya (WWAs)

2022年3月、Women`s Wellness Actionは、国際女性デー月間と連動して、渋谷から活動を開始いたしました。活動指針として、渋谷区から日本国内、世界に「女性のウェルネス思考」を発信し、心と身体の健康を啓発、フェムテックなど、女性の健康やウェルビーイングのための、新しい視点や技術を広く周知し、渋谷区らしい先進的で楽しいアクティビティを通して賛同を集め、女性が日々直面する女性特有の健康課題への認知を拡大し、解決のための行動を促進します。公益財団ジョイセフ、渋谷区、一般財団法人渋谷区観光

協会と連携し、支援の輪を広げる事を実現していきます。WWAs 事業の主な活動は表3のとおりでした。

表 3 WWAs 事業の主な活動

日程	内容
2022年3月14日プレスリリース	「Women's Wellness Action from Shibuya」が発足 キックオフイベント
2020年3月	ホワイトトリボンラン 渋谷・表参道 <b>Women's Run</b> 連携

## 2 パートナー企業に関する事項

FDS 設立に関わった参画パートナーは表4のとおりです。

表 4 パートナー企業一覧 (年度末現在)

参画パートナー(計 15 社)
渋谷区、株式会社アカツキ、株式会社 NTT ドコモ、京王電鉄株式会社、株式会社シブヤテレビジョン、ソニー株式会社、大日本印刷株式会社、株式会社デジタルガレージ、東急株式会社、東急不動産株式会社、株式会社日建設計、株式会社パルコ、株式会社バンダイナムコアーツ、株式会社みずほ銀行、レノボ・ジャパン合同会社

## 3 パブリックパートナーに関する事項

パブリックパートナー間、パブリックパートナーとパートナー会員企業との連携、協力による新たな可能性を拡充することを目的として、国及び地方公共団体、一般社団法人及び一般財団法人、公益社団法人、NPO 法人、学校法人及び独立行政法人、その他を対象とするパブリックパートナー制度を導入しました(2021年12月理事会にて承認済)。パブリックパートナーは表5のとおりです。

表 5 パブリックパートナー一覧 (年度末現在)

パブリックパートナー(計 社)
一般社団法人 SWITCH、一般財団法人渋谷区観光協会、公共社団法人渋谷区勤労者福祉公社、一般社団法人渋谷再開発協会、一般社団法人日本カーボンニュートラルウェブ協会、一般社団法人渋谷フォント、京都市

#### 4 役員に関する事項

理事6名、監事1名の7名が役員総数です。役員の様子は表6のとおりです。

表 6 理事一覧 (年度末現在)

氏名	地位および担当	重要な兼職
小泉 秀樹	代表理事	東京大学教授
佐藤 仁	理事	東京商工会議所渋谷支部会長
大西 賢治	理事	渋谷区商店会連合会会長
浜田 敬子	理事	前 Business Insider Japan 統括編集長
佐藤 新子 (長田 新子)	業務執行理事、事務局次長	
大澤 一雅	業務執行・常務理事、事務局長	
太田 諭哉	監事	日本公認会計士協会東京会渋谷会会長

#### 5 Future Designer に関する事項

パートナー企業、特別正会員企業、賛助会員が提案する事業案件について、多様な視点から事業化の方向性を決める特別アドバイザーメンバーです。メンバーは全8名で表7のとおりです。

表 7 Future Designer 一覧 (年度末現在)

氏名	所属
大日方 邦子	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会会長
齋藤 精一	パノラマティクス 主宰
左京 泰明	特定非営利活動法人シブヤ大学代表理事 一般社団法人マネージング・ノンプロフィット代表理事
佐藤 夏生	株式会社 EVERY DAY IS THE DAY クリエーティブディレクター /Co-CEO
夏野 剛	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究所特別招聘教授
野村 恭彦	Slow Innovation 株式会社 代表取締役/K.T.I 虎ノ門大学院 教授
林 千晶	株式会社ロフトワーク 共同創業者 取締役会長
若槻 千夏	タレント・デザイナー

FDS の事業進捗の共有と機会の創出アドバイス、神宮前三丁目障がい者施設に関する意見交換会を 2021 年 6 月 23 日、12 月 14 日、12 月 27 日、2022 年 2 月 15 日に設けました。

## 6 会議に関する事項

実施された社員総会と理事会は表 8 のとおりでした。

表 8 社員総会等一覧 (年度末現在)

種別	日付	場所	出席	議案
社員総会				
第 3 回	2021 年 6 月 21 日	渋谷区役所 9 階庁議室	理事 6 名 監事 1 名	報告事項 第 3 期事業報告 第 1 号議案 第 3 期計算書類承認の件 第 2 号議案 役員等の報酬の件
理事会				
第 16 回	2021 年 6 月 3 日	渋谷パルコ 9F 渋谷未来 デザイン会 議室及び WEB 会議	理事 6 名 監事 1 名	第 1 号議案 2021 年度事業報告について 第 2 号議案 2021 年度決算報告について 第 3 号議案 2021 年度事業計画について 第 4 号議案 2021 年度収支予算について 第 5 号議案 2021 年度定時社員総会の招集について
第 17 回	2021 年 7 月 5 日	渋谷パルコ 9F 渋谷未来 デザイン会 議室及び WEB 会議	理事 5 名 監事 1 名	第 1 号議案 2021 年度収支予算について
第 18 回	2021 年 9 月 14 日	渋谷パルコ 9F 渋谷未来 デザイン会 議室及び WEB 会議	理事 4 名 監事 1 名	※報告事項 (事業進捗、収支見通し、会員等申込) について のみ
第 19 回	2021 年 12 月 14 日	渋谷パルコ 9F 渋谷未来 デザイン会 議室及び WEB 会議	理事 4 名 監事 1 名	第 1 号議案 パブリックパートナー基準の承認について 報告事項 事業進捗、上半期決算報告、収支見通しについ て
第 20 回	2022 年 3 月 15 日	渋谷パルコ 9F 渋谷未来 デザイン会 議室及び WEB 会議	理事 5 名 監事 1 名	第 1 号議案 2022 年度事業計画書 (案) について 第 2 号議案 2022 年度収支予算書 (案) について 第 3 号議案 事務局長の選任について 報告事項 会員等申込について

また、渋谷区産官学民連携組織評議員会は表9のとおり開催されました。

表9 渋谷区産官学民連携組織評議員会 (年度末現在)

日付	場所	出席評議員	所属	議案
2021年 8月3日	WEB会議	高橋 裕子 (座長) 阪本 浩 針本 正行 小林 三雄 加藤 健三	津田塾大学学長 青山学院大学学長 國學院大學学長 渋谷区町会連合会会長 渋谷区都市整備部部長	議題1 令和2年度事業概要と 収支 議題2 令和3年度事業概要